

3. 経営成績

(1) 当中間期の概況

当中間期のわが国経済は、年初からの円安と株式市場の低迷、依然として厳しい雇用情勢や個人消費の伸び悩みが続くなか、米国経済の減速から輸出が減少したことで景気は悪化を続けデフレの様相を呈した状況のまま推移いたしました。

自動車業界におきましては、国内販売は景気低迷により前年同期を若干下回り、また、四輪車全体の国内生産台数についても、米国販売の落ち込みから輸出が減少し前年同期を若干下回りました。

このような情勢のなかで、積極的な営業活動を展開いたしましたが、当社も影響を受け連結売上高は282億2千万円となり、前年同期を3千万円(0.1%減)下回りました。

製品事業別に見ますと、軸受製品では116億6千万円(前年同期比1.1%増)、ダイカスト製品では67億1千万円(前年同期比3.0%減)、ガasket製品では11億9千万円(前年同期比5.9%減)、組付製品他では21億4千万円(前年同期比2.4%減)、設備・金型製品では65億円(前年同期比2.6%増)となりました。

利益につきましては、海外子会社が投資時期にあり、特に米国子会社のタイハウコーポレーション オブ アメリカでの第2工場建設による減価償却費・立上り準備費用の増加により、営業利益は、15億円(前年同期比1.1%減)、経常利益は、15億2千万円(前年同期比2.5%減)となりました。当期純利益は、更に株価下落の影響を受け有価証券の減損処理をした結果7億7千万円(前年同期比13.3%減)となりました。

当期の中間配当金は、当初予定どおり、前年同期に比べ2円増配の一株当たり8円とさせていただきます。

(2) 通期の見通し

今後の経済の見通しにつきましては、デフレの進行に加え、米国同時多発テロ事件と報復戦争が世界経済に与える影響などから、景気の先行きは不透明な状況が続くものと思われます。

自動車業界におきましては、国内販売は自動車メーカー各社の新モデル投入による拡販努力は見込まれるものの、世界の販売状況をみると前年を下回りながら推移しており、グローバルな競争は、品質・コスト・スピード等あらゆる面で激しさを増すことが予想されます。

このような経営環境のなかで、当企業集団といたしましては、「スピード&オープン」をスローガンのもと、中期経営計画('00年~'02年度)のなかでの四つの方策、海外展開、製法の刷新、新製品の開発、営業の開発を確実に遂行することより、通期の業績につきましては、連結売上高は590億円(前期比0.2%増)、経常利益は33億1千万円(前期比4.1%増)、当期純利益は18億1千万円(前期比0.6%増)を見込んでおります。

また、当期の配当金は当初予定通り、中間配当8円を含め、前期より2円増配の一株当たり16円を予定しております。